佳作

あなたから卒業

橋本ユカ
東京都・三五・会社員

かずちゃん、結婚が決まったそうですね。おめでとう。今度こそ「死が二人を分かつまで一緒に」ね。

私達が離婚して三回目の秋が来ました。

別れの時、十年間一緒だった貴方へ、最高にイカした言葉で決めたかったのに、改札でモジモジした末やっと出た言葉が「長い間お世話になりました」の一言。ああ野暮ったい。貴方は少し笑いました。懐かしい。

せめて電車に乗り込む前に、最高の笑顔を！　と思ったのに、ホームの真ん中まで来てチラリと改札の貴方を見たら、両拳を震わせ、顔を真っ赤にしてるんだもん。大泣きしちゃったじゃない。私、泣きながらも、最高の笑顔を作ろうと頑張ったら、ああなっちゃった。最高に不細工だったでしょ、私？　おまけに、滂沱（ぼうだ）の涙と鼻水を拭おうとハンカチを求めてバッグを弄（いじ）ったら、勢い余って中身を全部ばら撒いちゃって。不様だったでしょ、私？　最後の最後なのに醜い姿を見せちゃった。

お願いです。カッコ悪い最後の五分間の私を記憶から消して下さい!!

さて、もう遅いかもしれないけど、この際だから白状します。貴方が気に入っていた萩焼の急須、ぶつけてヒビを入れました。ゴメンなさい。食器棚の一番上の奥に隠しています。そのお詫びと言っては何ですが、赤いアルバムの最後のページを見て下さい。四枚の写真の裏には、それぞれ一万円札が貼ってあります。使って下さい。脱水が弱くなっていた洗濯機を買い換えてはどうでしょうか？

「前向きな離婚」と言い張り家を出たものの、一人、狭い部屋で考えるのは貴方の事でした。「ちゃんとご飯を食べているのか」「体を壊していないか」「仕事はうまくいっているのか」等色々と。しかし最早、私が心配することではないのですね。

ようやく、貴方からの卒業です。

かずちゃん、絶対に幸せになってね。

お元気で。本当に、サヨウナラ。

＊「前向きな離婚」を謳い、二年半前に離婚した私達。先日、元夫が再婚することを聞き、安堵と寂しさと想い出が溢れてきました。彼への「最後の恋文」です。